

遠江八景

館山秋月

弁天夕照

浜名暮雪

潮見晴嵐

瀬戸夜雨

五山晚鐘

寸座落雁

細江歸帆



遠江八景の発刊にあたって

律令制下の地方行政区画として五畿七道が定められた。七道の二に東海道があり、東海道に属する国の二に遠江がある。都に近い淡海(近江)に対し、都に遠い淡海、即ち遠く淡海が転じて遠江となったと言われている。この遠く淡海即ち浜名湖は古来館

山寺や弁天島など景勝地の多いことでも知られていた。その景勝地の一つ引佐細江の濤標は、万葉集に

遠江引佐細江の濤標吾を頼めてあさましものを

と詠われている。

中国湖南省洞庭湖の南にある瀟水と湘水も名勝の多い地である。その中でも平沙落雁・遠浦帰帆・山市晴嵐・江天暮雪・洞庭秋月・瀟湘夜雨・煙寺晚鐘・漁村夕照と名付けられた瀟湘八景は有名である。我が国でもこれにならって近江八景、金沢八景などが定められている。秀峯富士山が世界遺産に選ばれた今日、更に浜名湖の景勝を国の内外の人々が認識を深めて下さることを願って遠江八景を選定することにした。

その選定の基準は歴史的・文学的・美術的に優れ

たものであること、現在も楽しめるような景観であることである。このような観点に立って選考を行うべく、歴史や文化等の専門家による選定委員会を組織した。この選定委員会で検討を重ね現場検証などを行い、今日遠江八景を決定したのである。

その八景は、館山秋月・弁天夕照・浜名暮雪・潮見晴嵐・瀬戸夜雨・五山晚鐘・寸座落雁・細江帰帆である。ここで現代的な景勝として、浜名大橋や東名浜名湖サーブスエリアも選んだこと、また晚鐘については特定一寺院ではなく、観光的観点を含め、さまざまな面から連携を進めている湖北五山を選んだことに御注意いただきたい。

今回決定した遠江八景が先ず浜名湖地域並びに静岡県全域の住民の皆様に親しまれること、更には日本国内及び、国外の方々にも広く愛されるようになることを望んでいる。そして遠江八景の風光美が国の内外の人々の交流の架け橋となり、世界の平和へ貢献することを希望している。

平成二十六年三月 選定委員長 有馬朗人

天皇陛下御製

てんのうへいかぎよせい

車窓しゃそうよりはるけく望のぞむ奥おく浜はま名な湖こ東とう名めいの橋はし清きよかに浮うかぶ

皇后陛下御歌

こうごうへいかみうた

われら若わかく子こらの幼わさなく浜はま名な湖この水みず辺べに螢ほたる追おひし思おもほゆ

新しい文化創造の拠点に

静岡県立美術館館長 芳賀 徹

「遠江八景」がついにみごとに選定された。まことにめでたいことだ。

八つの地名と景がこうして選ばれて組み合わせられてみると、大半のひとはなるほど納得してくれることだろう。これまでも、浜名湖の周辺やその一地域をめぐって八景選びが試みられたことはいくたびもあった。だが、どれも定着はしなかったようだ。選者の個人プレーに終わって、地元からの文化発信力と結びつかなかったからだらう。

いうまでもなく、この「遠江八景」選定の背景には、室町から江戸の初期にかけて試行錯誤の末に定まった「近江八景」があった。こちらの八景

は、以後、詩歌や絵画にたくさんのすぐれた作例を生みだしてきて、日本文化史上に定着した。私たちの「遠江八景」もこれを継承こそすれ、これに負けてはなるまい。

さらに北宋時代、十二世紀の中国にさかのばれば、洞庭湖南岸の風光のなかから選ばれた「瀟湘八景」があった(琵琶湖南岸の「近江八景」はそれに学んで見立てられたのだ)。「瀟湘夜雨」「煙寺晚鐘」「平沙落雁」「洞庭秋月」等々の全八景が、南宋の禪門の画僧牧谿や玉潤らによつて描かれ、その水墨の名品が室町の日本に伝わつて、今日にいたるまでかわらぬ最高の評価を得ているこ

とも周知のとおり。

さらにさかのばれば、「瀟湘八景」の遠い背景には、李白、杜甫、錢起らの唐代詩人が洞庭湖上とその周辺の風物を詠んだ名詩の数々もある。とすると、このたびの私たちの「遠江八景」は、唐宋の中国から徳川・明治そして昭和の日本にまでいたる、広大で豊麗な古典的詩画の遺産を受けつぐものということになる。

それゆえに、「遠江八景」を安ものにしてはならない。ただの観光名所にとどまつてもならない。東アジアに普遍的偉大な詩画の伝統に位負けない立派な文化再生の拠点としてゆこうではないか。

遠江八景

06・07

館山秋月

(館山・大草山)

08・09

弁天夕照

(弁天島・舞阪)

10・11

浜名暮雪

(浜名大橋・新居宿)

12・13

潮見晴嵐

(潮見坂・高師山・白須賀宿)

14・15

瀬戸夜雨

(瀬戸・大崎・猪鼻湖周辺)

16・17

五山晚鐘

(湖北五山)

18・19

寸座落雁

(東名高速道路浜名湖SA周辺)

20・21

細江帰帆

(引佐・細江)

22・23

万葉集遠江歌考を著した

国学者

賀茂真淵

とその業績

24・25

花の都へようこそ 浜名湖の花めぐり

26・27

浜名湖周辺の句碑・歌碑

館山 秋月

Tateyama-shi
Tateyama-shi
Tateyama-shi

館山は江戸時代後期まで周りを浜名湖の水面に囲まれていた島であった。現在では、埋め立てにより、庄内半島の基部とつながり、館山寺温泉の一角として多くの観光客を集める湖岸きっての景勝地となっている。島であった館山が半島部と洲によってつながり、往來できた状況が歌川広重の浮世絵によってうかがえる。館山は標高五十メートル、周囲千四百メートル、全山は珪岩によって形成されており、湖岸からみた秋の月は内浦の湖面に映え、また松の影にかかり詩情豊かである。このため、与謝野晶子や北原白秋など多くの文人墨客が訪れ、詩文を草し、歌を詠み、句をものしている。館山とその周辺は秋月だけでなく、景勝の地が多く、江戸後期に著わされた『遠江古跡図会』には「館山八景」として紹介されている。また、『東海道名所図会』には「遠湖堀江村館山寺」の図として館山を中心とした鳥瞰図が描かれており、山の頂に富士見岩がみられ、内浦を挟んで大草山が望まれる。

竹鳴きの

消ゆれば

波の

音ばかり

原田浜人

句碑：館山寺町地先の湖岸

浜人は浜松出身の俳人、大正から昭和にかけ静岡県下の俳壇をリードした。句誌「みづうみ」を創刊主宰した。大草山に「秋惜しむ松と夕日や館山寺」の句碑があり、弁天島にも「鴨すでに一連とぶやそこの空」の一句を刻んだ石碑が建立されている。



歌川広重 六十余州名所図会「遠江」
嘉永6年～安政3年(1853～1856) 浜松市美術館

館山寺松山穩し湖を来て

ここは小春の

入江さざなみ

北原白秋

「ちよつさり節」の作詞者としても知られる北原白秋は、「遠つあふみ浜名のみ湖(うみ)冬ちかし真鴨翔(かけ)れり北の昏(くら)きに」等、遠江で様々な歌を残している。この歌は昭和七年十月に鷺津を訪れ、船で館山寺に巡航したときのもの。「この道」や「ベチカ」からたちの花」など、童謡詩人としても知られる白秋には、小春日和の耀く陽射しが、まるで幼子のように朗らかで眩しく見えていたのかもしれない。

館山の秋月 小野湖山

湖浜古名勝

湖浜 古の名勝

呼做小赤壁

呼び做す 小赤壁と

年年明月好

年年 明月好し

誰追蘇老跡

誰か追わん 蘇老の跡

【訳】

湖の浜辺にはかねて名勝があり

「小赤壁」と呼ばれている

毎年 ここに明るい月が輝く

蘇軾を慕ってこの風景を

詩文に詠じるひとはいないのか

【解説】

作者の小野湖山は、幕末明治の漢詩人。詩中の「小赤壁」とは、館山寺西北岸にある「チャート海岸」を指す。この赤褐色の崖壁を中国の赤壁になぞらえた。赤壁は現在の湖北省黄州にある、いわゆる「東坡赤壁」である。「蘇老」とは北宋の文人蘇軾(号は東坡)を指す。蘇軾は「前赤壁の賦」念奴嬌」など、赤壁にちなむ作品を詠んだ。

交通アクセス



撮影地: 静岡県浜松市西区館山寺町
 【バス】 浜松駅バスターミナル1番乗場から
 乗車「館山寺温泉」下車 徒歩約10分
 【車】 東名高速道路
 浜松西ICから約17分
 ミネコICから約35分

周辺情報

Information

牡蠣カバ井



地元で採れる牡蠣を浜松名物のうなぎの蒲焼のタレで焼き、海苔などを添えた井御飯に乗せたものを「牡蠣カバ井」として提供。
 平成22年の「全国新・ご当地グルメ選手権」では準優勝を獲得。

浜松市動物園



1950年(昭和25年)に開園した浜松市立の動物園。ライオンやトラといった猛獣のほか、ニシローランドゴリラやスマトラオランウータンといった霊長類の展示は区内最大級。小型のサル「ニールデンライオンタマリン」は、日本では浜松市動物園だけしか見ることができない。
 住所: 浜松市西区館山寺町199
 電話番号: 053-487-1122
 HPアドレス: <http://www.hamazoo.net/index.php>
 入園: 午前9時から午後4時30分 大人400円(中学生以下、障害者、70歳以上無料)

弁天 夕照

べんてんのせきしょう ● Benintoshishou

弁天島は浜名湖を代表する島である。江戸のはじめには西野とか狐島と呼ばれていたが、中期の宝永年間弁天社が勧請されたことから弁天島と呼ばれるようになった。東海道舞坂宿から西の新居宿に向かうには、浜名湖を舟で渡らなければならなかった。今切の渡しである。湖上二里の船旅は旅人にとって弁天島の白砂青松の眺めが楽しみであったが、その反面風波の激しいときには危険もはらんでいた。

弁天島が海水浴場として、また、保養地として脚光を浴びるようになったのは、明治の中期からで、多くの文人も訪れるようになり、旅館の数も増えていった。島の南岸から見た夕日は遠州灘の雲を赤く染め、美しい風景を生み出している。弁天神社境内に建てられている正岡子規の句碑は遠江における代表的な存在として知られている。舞坂宿は宿場であると共に昔から漁業の里として知られ、池田遙邨が描いた絵画には港の周辺を航行する舟が見られる。

天の川濱名の橋の十文字

正岡子規

句碑 弁天神社

遠江における数ある文学碑のうちでも広く知られているのが、浜松市西区舞阪町弁天島の弁天神社境内にある正岡子規の句碑である。自然石に縦に刻まれたこの句は、明治25年頃の作といわれており、建立は大正14年7月5日、発起人は子規の門人であった加藤雪腸（本名：孫平）であった。除幕式には東京から高浜虚子を招き、遠江からは松島十湖をはじめとする俳人50余人が集まった。

式のあと、丸文旅館で記念の句会が催され、選者は虚子であった。

浜つづき夏のおほそら
はるかにて立つしら浪の
けぶりたるかな

若山牧水

晩年を沼津で過ごした若山牧水も遠江に来て、歌を詠んでいる。「富士よゆるせ今宵は何の故らなう涙はてなし汝(なれ)を仰ぎて」等、富士を百首詠んだ牧水には空の歌も多い。この歌は葛飾北斎の木版画作品も思わせるほどに「立つしら浪」が主役となつて、印象的な一首だ。「立つしら浪のけぶりたるかな」の迫力と躍動感を私たちは味わえбайい。牧水にとっては波も胎動する生きものなのだ。



◆池田達郎 昭和東海道五十三次「舞阪 弁天島」昭和6年(1931) 倉敷市立美術館

浜名館

依田学海

穩波只道午風柔

穩波只だ道う午風柔かなりと

湖上遙浮・葉舟

湖上遙かに浮かぶ 一葉の舟

解纜鷺津僅俄頃

纜を鷺津に解けば僅かに俄頃にして

片帆直到辨天洲

片帆直ちに到る 弁天洲

【訳】

穏やかな波とともに
午後の柔らかい風が吹く
湖上には彼方に一艘の舟が浮かぶ

鷺津を出てまだいくばくも経たないうちに
我が帆掛け船は弁天島についてしまった

【解説】

作者の依田学海は、幕末・明治の漢詩人・劇作家。森鷗外の師としても知られる。学海には「遠州浜名十二勝記」があり、明治二十二年四月(二八九九)、浜名湖を遊覧した際の心境を十二首の漢詩に記した(すべて七言絶句)。本詩はその一首。「浜名館」は鷺津にあった旅館の名。「弁天洲」は弁天島をいう。

周辺情報

Information

うなぎ



浜名湖のうなぎ養殖の歴史は古く、うなぎ産地としての知名度は全国でもトップクラス。浜名湖周辺には多くのうなぎ料理の店があり、蒲焼や白焼きなどを楽しむことが出来る。また、舞阪には、「うなぎ観音」の名で親しまれる魚鯨観音大菩薩像(ぎょらんかんのんだいぼさつそう)がある。

舞阪宿脇本陣



江戸から数えて30番目の宿場にあたる舞坂宿。大名・幕府役人などが宿泊・休憩する本陣の利用が重なって宿泊などができない場合に、本陣の代わりをつとめたのが脇本陣である。普段は、武士や一般庶民が利用する旅館(はたご)として営業されていた。
住所:浜松市西区舞坂町舞阪2091
電話番号:053-596-3715

交通アクセス



撮影地:静岡県浜松市西区舞坂町舞阪
【JR】 弁天島駅から徒歩約3分
【車】 東名高速道路
浜松西ICから約30分
三ヶ日ICから約45分
浜松ICから約50分

浜名 暮雪

風土に恵まれた遠江にあっては夕暮れに降る雪の風情はあまり見ることは出来ないが、浜名湖にかかる国道橋や浜名大橋の景観は暮雪の情景を彷彿とさせてくれる。小野

湖山が撰した浜名八景に浜名長橋があるが、橋が架けられたのは明治に入ってからで、明治十四年地元財界人の結社「浜名社」により舞阪と新居との間に建設された。弁天島の西側に人工の島を造成、島と島を結ぶようにして橋が渡された。当初は木造の有料橋であった。現在では弁天島から南方を見ると海浜公園の先に鳥居の形をしたタワーがあり、今切口にかけられているアーチ型の浜名大橋が望まれる。今切渡船の新居側の船着場は新居関所に連結しており、船から下りた旅人は関所を通らなければ通行を許されない仕組みになっていた。朝鮮通信使や琉球使節の行列も関所を通過して浜名湖を渡ったのだった。新居の街並は路地が多く、宿場町というより城下町的な情緒を残している。

木戸しまる音や
あら井の
夕千鳥

不夜庵太祇

句碑：新居関所

江戸中期の俳人太祇がこの句をつくったのは宝暦7年(1757)ごろと考えられている。太祇が遠江でものした作品中の傑作で、旅の感慨が味わえる。「炭」氏を称して「炭太祇」とも呼ばれている。



◆安田雷洲 東海道五十三駅
「まひさか いまきれ・あらみ」(部分)
弘化元年(1844)頃 町田市立国際版画美術館

ふみわけて今もみてしか
遠つあふみ浜名のはしに
ふれる初ゆき

賀茂真淵

かつて藤原定家が「影たえてしたゆく水もかすみけり
はまなの橋の春の夕暮」と詠み、源頼朝も「かへる浪君
にとのみぞこつてし浜名の橋の夕暮の空」と詠んだ
浜名の橋。清少納言も『枕草子』の中で「橋は浜名の
橋」と語っている。賀茂真淵は浜名の橋に降る雪を遠江
国番の印象的なものとして、この歌を詠んだ。「はし」
も「ゆき」もひらがなにするこゝで、やわらかな印象を
与えている。

はまな
浜名の長橋 小野湖山

長橋横数里

長橋 横たわること数里

橋下海潮通

橋下 海潮通ず

行旅便多少

行旅 便あること多少ぞ

追思構造功

追思す 構造の功

【訳】

長い橋が幾里も横たわり

橋の下に海の潮が流れる

この橋によってどれほど旅が便利になったか

建設の功労を思いやる

【解説】

小野湖山は龍谷寺(湖西市新居町)の僧侶
谷紹允と協議して、明治二十四年頃、「浜名
湖八勝」を詠じた。この詩もその一首。「多少」
は「どれくらいか」の意。江戸中期の中井竹
山は「舟船齊しく放つ 榜歌(舟歌)の声、
新井関前 海巴(はなは)だ晴る。西のかた
白菅(須賀)を去つて唯だ一駅、芙蓉(富士
山)の雪色 更に分明」「新井の海を渡
る」と詠う。



撮影地: 静岡県湖西市新居町新居
【JR】新居町駅からタクシーで約10分
【車】東名高速道路 浜松西ICから約30分
三ヶ日ICから約45分 新居町駅から約10分
浜名バイパス新居弁天ICから約5分

周辺情報
information

今切体験の里 海湖館



浜名湖と太平洋が接する今切口のすぐ西側に位置する浜名湖今切体験の里。海にちなんだクラフトづくりや浜名湖の海の幸を味わう体験プログラムなどがある。牡蠣のシーズンである1月から3月には牡蠣小屋も出店しており、新居のブランド牡蠣「プ」丸」を楽しむことが出来る。近くには海釣公園があり、一年を通して釣りを楽しむことが出来る。
住所: 静岡県湖西市新居町新居官有無番地
電話番号: 053-594-6624

新居関所



江戸を守るために全国53箇所に設けられた関所の一つで、「入り鉄砲と出女」について厳しく取締りが行われた。特に新居関所に幕府直轄の関所として、最高の警備体制が敷かれていた。日本で唯一現存する関所建物として、昭和30年に国の特別史跡に指定された。
住所: 静岡県湖西市新居町新居1227-5
電話番号: 053-594-3615

潮見晴嵐

しよみのせいらん • Shiom nosiran

湖西市白須賀元町から潮見観音で知られる蔵法寺の門前を通り、寺の西側を台地の上にのびている急勾配の登り道が潮見坂である。室町時代の『富士御覽日記』などにも記されている東海道の旧道で、歌川広重の浮世絵をはじめ多くの絵画に、坂を進む大名行列や坂上から見た遠州灘の風景が描かれている。坂上から東方に向かって展開する小高い丘陵地は高師山と呼ばれており、大倉戸の北側から新居宿の西側まで連なっている。潮見坂上や高師山にかけて遠州灘から吹き付ける風は、まさに潮見特有の風情である。高師山から見た晴れた日の霞は文学的情感をかきたてられ、これまでに数多くの詩歌に詠まれている。東海道を東に向かつてきた旅人が初めて海を目の当たりにするのが潮見坂上であり、富士を眺望できたのもこの地であった。明治天皇が初めて東京へ行幸されたとき、この潮見坂の上で休憩されたことも知られており、海が見える高台に記念碑が建てられている。

雲と見し
花をちからに
登りけり

松島十湖

嘉永2年(1849)、豊田郡中善地村(現:浜松市東区豊西町)生まれ。明治・大正時代に活躍した遠江を代表する旧派の俳人。門人は全国におよび、生涯詠んだ句は8千を超える。代表句は「はま松は出世城なり初松魚」。大正15年7月10日没。



◆ 桶山大観・下村観山・今村紫紅・小杉末醒 東海道五十三次合作絵巻 第六巻(部分)「白須賀・潮見坂」末醒 大正4年(1915) 東京国立博物館 Image:TNM Image Archives

今ぞけふ願ひ満ちぬる

潮見坂心ひかれし

富士を眺めて

足利義教

東海道と讀えられた景勝地「潮見坂」。織田信長が尾張に戻る際、徳川家康が茶亭を新築してもてなした場としても知られている。足利義教は室町時代の第六代の将軍だ。三代将軍義満の三男で義満同様、富士山が好きだった。自ら駿河国へ行き、富士山を遊覧したことでも知られている。他に、「立ちかへりいく年なみかしのばまししおみ坂にてふじを見し世を」の歌も残している。

遠江の朝鮮通信使

享保年度の朝鮮通信使の記録である申維翰の「海游録」(1716年)には、「潮見坂」に至ると道は海に沿っており、「白須(白須賀)」では初めて富士山の素晴らしい景色に接したと記している。新井の関所では「国法」による兵器などの取り締まりの厳格であることを伝え、今切は小舟に分乗して渡ったが、その船は漆塗りの豪華なものであったと記す。この今切は、日本人の言う所によると「数百年前に地が裂けて河となった」のだ、と地産、津波を経験したことのない朝鮮の使節としては、この話は本当かと疑っている様子が窺われる。

高師の晴靄

小野湖山

眼界曠無際

眼界 曠として際無し

吹衣万里風

衣を吹く 万里の風

鵲影与帆影

鵲影と帆影と

依微煙靄中

依微たり 煙靄の中

【訳】

はるか彼方まで広がり

万里の彼方から吹く風が

隼のすがたと帆のようすが

かすむもやの中に見えている

我がこころもゆるらす

【解説】

「高師」はここでは、新居町西に広がる丘陵地を指す。本詩は浜名湖や太平洋を見渡して詠じたもの。地平と天空が広がる雄大な風景を巧みに詠っている。「靄」は霞みやもやをいう。「風」もほぼ同義。「曠」は広大なさま。「鵲」ははやぶさの類。「依微」はぼんやりと霞むさま。

交通アクセス



撮影地：静岡県湖西市白須賀
【車】 潮見バイパス白須賀ICから約5分

周辺情報

information

道の駅潮見坂



展望デッキからの眺めに素晴らしい、遠州灘のパノラマは地球の丸さを実感できます。
近隣でとれた旬の農産物や地元の特産品を取り揃えた売店もある。
住所：湖西市白須賀1896-2
電話番号：053-579-3600
HPアドレス：
<http://www1.ocn.ne.jp/siomi327/>

おんやと白須賀



東海道53次、31番目の宿場白須賀宿の歴史文化に関する情報を提供しています。
東海道を歩く人々の休憩施設など、新たな文化、交流の発信拠点として活用されている。
住所：湖西市白須賀900
電話番号：053-579-1777

瀬戸 夜雨

せとのやう Setonoyau

瀬戸はその昔「迫戸」や「迫門」と書かれていた。奥浜名湖に位置し、猪鼻湖の南の口にあたる。猪鼻湖の北岸は古代の東海道とも呼ばれている本坂道（姫街道）が東西に通っている。万葉の歌の世界にもこの瀬戸を舞台にした作品が詠まれており、湖口の両岸に岩山が迫り、小野湖山の浜名八景の詩文に「石勢危而険」と迫門の奇巖を評している。

瀬戸の流れは潮の干満によてきわめて速く、水深は十五々に達し、浜名湖で一番深い場所であり、素晴らしい景観である。

浜名湖と猪鼻湖とを区切っているのが大崎半島で半島の中央部を県道瀬戸佐久米線が通り、その道路とからむように、旧道ものびている。二本の道は瀬戸において急接近するが、それぞれ独立した二本の橋によって対岸に渡っている。瀬戸から東南方向を見ると小島が見える。ダイダラボッチの伝承を秘める礫島である。瀬戸の景観は晴天の日もいいが、雨に煙る情景は捨てがたい、突き出た岩の上に祀られている猪鼻の小社は「瀬戸夜雨」の世界である。

蜜柑山の

上の上なる

山も

みかん

久米正雄

句碑三ヶ日中学校校庭

小説家であり、劇作家でもある久米正雄は終戦直後の昭和21年12月、三ヶ日を訪れた。地元の文学愛好者の招きを受けて湖北路の土を踏んだとき、折から一杯実をつけたみかん山の景観に圧倒されたのだらう。



◆ 遠湖図(部分) 飯田純男氏蔵

遠つあふみ井の花の湖は
夜もひるもうなてりすなり
ほがらかにして

田辺友三郎

作者は幼年唱歌「モモタロウ」「春の野」の作詩で知られた教育者。晩年に三ヶ日に移住し、猪鼻湖を愛した。「真白に見えし雪消えて野はおもしろくなりけり(中略)いつかこ待ちし花さきて日も暖かになりけり友さそい籠ざげてすみれ摘み蓮華とり遊ぶもたのし春の野に水き日かけの移るまで」「春の野」こんな詩も書くことのできる心あたたかな詩人だった。

迫門の奇巖

小野湖山

石勢危而険

石勢 危にして険

能開水勢奇

能く開く 水勢の奇

画師不描得

画師すら描き得ず

豈可入吾詩

豈に吾が詩を入る可けんや

【訳】

岩は高く切り立ち

水の流れば意表を突く

絵師でもこの風景は描けない

私の詩など描写できるわけがない

【解説】

猪鼻湖と浜名湖を結ぶ水道とその両側にそびえる奇巖を詠じたもの。「迫門」は「瀬戸」。「危」は高くそびえるさま。依田学海もこの地を訪れ、「花明るく樹緑にして人煙(煮炊きの煙)密なり、春麗の桃源 一幅の図」と詠じ、この地は桃源郷のようだとその美しい風景を愛でている。

周辺情報 information

三ヶ日みかん



三ヶ日は日照量が多く奥浜名湖の温暖な気候や、耕土が深く乾燥しやすい(水はけがよい)などの、みかん栽培に適した環境となっている。この地で育てられた三ヶ日みかんは、「濃厚な甘味」と「程よい酸味」が見事に調和した独自の味わいとコクがあり、その上質な味は全国的に知られている。

三ヶ日温泉・奥浜名湖温泉



地下約1500mから汲み上げた源泉100%の奥浜名湖温泉。アルカリ度の高い「美人の湯」として知られる三ヶ日温泉。奥浜名湖の絶景を望みながら楽しむ癒しのひととき。

交通アクセス



撮影地: 静岡県浜松市北区三ヶ日町下尾奈
【鉄道】 天竜浜名湖鉄道尾奈駅から徒歩約50分
【車】 東名高速道路三ヶ日ICから約10分



大福寺(三ヶ日)



方広寺(引佐)



初山宝林寺(細江)



摩訶耶寺(三ヶ日)



龍潭寺(引佐)

五山 晩鐘

ござんのばんしょう Gozanbanshō

五山とは浜名湖の北に伽藍を構える五ヶ寺をよすものである。浜松市北区に位置しており、西から三ヶ日町福長の「大福寺」、同町摩訶耶の「摩訶耶寺」、引佐町奥山の「方広寺」、同町井伊谷の「龍潭寺」、細江町中川の「初山宝林寺」の古刹群である。大福寺の入相の鐘の音は背後に展開している富幕山にこだまして響き、南は浜名湖の支湖である猪鼻の湖面を越え、大崎半島にまで届く。龍潭寺で打たれる梵鐘は、本坂道(姫街道)を南に越えて引佐細江にまで伝わる。浜名湖岸には鐘で知られる名刹が数多く、館山八景には「宿薦寺」が、細江八景には「長楽寺」が、佐鳴八景には「龍雲寺」があげられている。湖面を渡る鐘の響きに対して山にこだまする晩鐘が臨濟宗方広寺派の巨刹方広寺の鐘である。奥山高原を越え、富幕山の峰に響き、三河の山里にまで届くという。

昏鐘や

一打一打に

散る銀杏

有馬朗人

句碑 方広寺

昭和5年(1930)、大阪府出身。平成元年東京大学総長、中央教育審議会会長、参議院議員・文部大臣、科学技術庁長官などを経て、18年学校法人根津育英会武蔵学園長。22年公立大学法人静岡文化芸術大学理事長。22年文化勲章受章。山口青邨に師事し、日本を代表する俳人のひとりとして活躍。『天為』を創刊・主宰する。国際俳句交流協会会長。

からかわの猫にあらねば
三味線の糸をも引かね
浜名納豆

大田蜀山人

大田南畝(なんぼ)とも称される作者は江戸時代の文人だ。漢詩や狂歌、随筆など、多彩な仕事で知られている。特に狂歌では、唐衣橘洲、朱楽管江とともに狂歌三大家とも呼ばれた。五山の二つである大福寺の納豆は、この頃からすでに名高く、今川や豊臣、徳川など、時の権力者たちにも献納されている。



◆東湊舎巴渡 寫、片山紫紅 刻 日本博覧区初篇 (東京精行舎 明治25年発行) 「方廣寺境内 行在所 真景」 静岡県明治銅版画風景集(羽衣出版 平成3年発行)から転載



◆上方雲外 画、村上楳山 刻 日本博覧区初篇(東京精行舎 明治25年発行) 「萬松山龍潭禪寺」 静岡県明治銅版画風景集(羽衣出版 平成3年発行)から転載

奥山に宿す

楚州

落葉千峰雨

落葉 千峰の雨

鳴鐘半夜霜

鳴鐘 半夜の霜

高僧時指月

高僧 時に月を指さし

心境坐相忘

心境 坐して相い忘る

【訳】

千の峰に葉が雨のように降り注ぎ
深い夜に鐘が霜のように染み渡る
高僧がしばしば月を指さして
坐して眺めるうちに
仏法を説くと
心の内など忘れてしまう

【解説】

「奥山吟詠後集」(明治二十二年)所収の五言律詩の後半である。江戸後期の僧侶・詩人の楚州の作。楚州は大雄寺(浜松市中区天神町)の住職であった。月夜を描いた詩であるので、「雨」は実景ではなく、散り落ちる葉の比喩とみなした。対句をなす「霜」も同様に比喩的表現と判断した。

交通アクセス

大福寺	【鉄道】 天竜浜名道線(大福寺)徒歩約15分
三井寺	【車】 東名高速道路 / 浜松南ICから約15分
龍潭寺	【バス】 浜松駅バスセンター15番乗場から乗車「石田」下車 徒歩約10分
方広寺	【鉄道】 天竜浜名道線(龍潭寺)徒歩約15分
大福寺	【車】 東名高速道路 / 浜松南ICから約20分 新東名高速道路 / 浜松ICから約10分
大福寺	【バス】 浜松駅バスセンター15番乗場から乗車「神宮寺」下車 徒歩約10分
大福寺	【バス】 浜松駅バスセンター15番乗場から乗車「御山」下車 徒歩約10分
大福寺	【バス】 天竜浜名道線(三ヶ日)から徒歩約30分
大福寺	【バス】 静岡駅バスセンター15番乗場から乗車「三ヶ日」下車 徒歩約20分
大福寺	【バス】 天竜浜名道線(三ヶ日)から徒歩約40分
大福寺	【バス】 東名高速道路 / 三ヶ日ICから約12分
大福寺	【バス】 浜松駅バスセンター15番乗場から乗車「三ヶ日南」下車 徒歩約30分

周辺情報 information

みそまん



黒砂糖を煮詰めた黒蜜を使った皮で餡を包んだ饅頭。茶色の皮が味噌の色に似ていることから、「みそまん」と呼ばれるようになった。引佐、細江、三ヶ日地域の多くの店でみそまんを販売している。各店によってこだわりの製法で作られたみそまんは、それぞれ違った皮や餡が楽しめる。

竜ヶ岩洞



竜ヶ石山の南麓にある、2億5千万年前の地層が盛り上げた大鍾乳洞。延長1,000mに及ぶ洞内のうち400mを公開している。年間を通して18度と快適な温度を保つ空間。落差30mにもおよぶ大滝をはじめ、つらら石や鐘乳石があり、太古より今へと続く大自然の造形にはただ驚愕させられる。
住所: 浜松市北区引佐町畑193
電話番号: 053-543-0108
HPアドレス: <http://www.doukutu.co.jp/>

寸座落雁

すんざのらくかん ● Surzanorakugan

細江湖（引佐細江）の北側に展開している山並みは尉ヶ峰から裾をひろげて湖岸に達している。湖に沿って東西にびてるのが国道三六二号で、西気賀の辺りからゆるや

かなカーブを描きながら寸座峠を越えて佐久米に至る。寸座峠の南側は半島になっており、先端部に東名高速道路浜名湖サービスイリアが設置されている。寸座と南側の村岸呉松との間に渡されているのが全長六百三十四の浜名湖橋である。この橋が浜名湖と引佐細江を分けている。往時は気賀から新居や鷺津方面に巡航船が就航していた。そして根本山や大草山に雁の渡る風景が見られた。平成の現代では季節ともなるとユリカモメの大群が見られる。天竜浜名湖鉄道佐久米駅や寸座の沖を航行する遊覧船にも餌を求めてカモメが飛来する。湖上乱舞の景観は寸座の独壇場である。雁は昔から浜名湖に飛来し、独特の形を編成した鳥の群れが空から湖面に降りようとする風景はまさに寸座落雁である。

雁おろすあたりや月の片あかり

竹住

句碑・細江神社

浜松市北区細江町気賀の細江神社境内にある細江八景の句碑は、雲泉の俳号をもつ鈴木角平が建立したものであり、碑面の末尾に「明治三十年十一月雲泉鈴木角平謹書並建立」と刻まれている。雲泉は細江町気賀の人で浜名湖北における俳諧をリードした人物。

松崎落雁の句をものした竹住は、姓を金子といい浜松市北区細江町気賀（下気賀）の人。明治中期雲泉の門流として多くの句をものしている。住居の前にある小半島、そして引佐細江を飛ぶ雁の風情を見てこの一句をまとめたのであろう。



◆ 竹原春泉斎 東海道名所図会 巻之三
 (秋里蘭島著 寛政9年(1797)出版)「遠湖 堀江村 館山寺」
 東海道名所図会 復刻版 上巻(羽衣出版 平成11年発行)から転載



浜名湖SAを望む



浜名湖SA

大崎

依田学海

雲林皴法入丹青

雲林 皴法 丹青に入る

絶壁削成聯錦屏

絶壁 削り成して 錦屏を聯ぬ

清隠他年如得志

清隠 他年 如し志を得れば

此間為築望湖亭

此の間 為に築かん 望湖亭

【訳】

雲たなびく森と文様のある岩は

絵画のなかのよう

絶壁が錦繡の屏風のように連なっている

清らかな境地で隠棲をすることが

いつか可能になったら

この地に湖を望む亭を建てたいものだ

【解説】

本詩は大崎附近を詠じたもの。浜名湖サービシエリアの「恋人の聖地」附近から西方に大崎半島が見える。「皴法」は指線を皴のよう描いて岩肌などを表現する技法。ここでは、そのように見える風景を指すか、「丹青」は絵の具、転じて絵画を指す。

交通アクセス



撮影地: 静岡県浜松市北区三ヶ日町佐久米
 【鉄道】 天竜浜名湖鉄道佐久米駅から徒歩約25分
 【車】 東名高速道路 東京方面から 浜松西ICから約6分
 名古屋方面から 三ヶ日ICから約3分
 一般道 浜松西ICからぶらっとパーク 約35分
 三ヶ日ICからぶらっとパーク 約7分

周辺情報

information

細江公園



細江の町並みを見下ろす小高い丘陵の上に位置する公園。展望台があり、細江の町並みや都田川、浜名湖などを見渡すことができる。

夜は夜景のスポットとしてもおすすめ。

電話番号: 053-473-1829

(浜松市公園管理事務所)

長楽寺

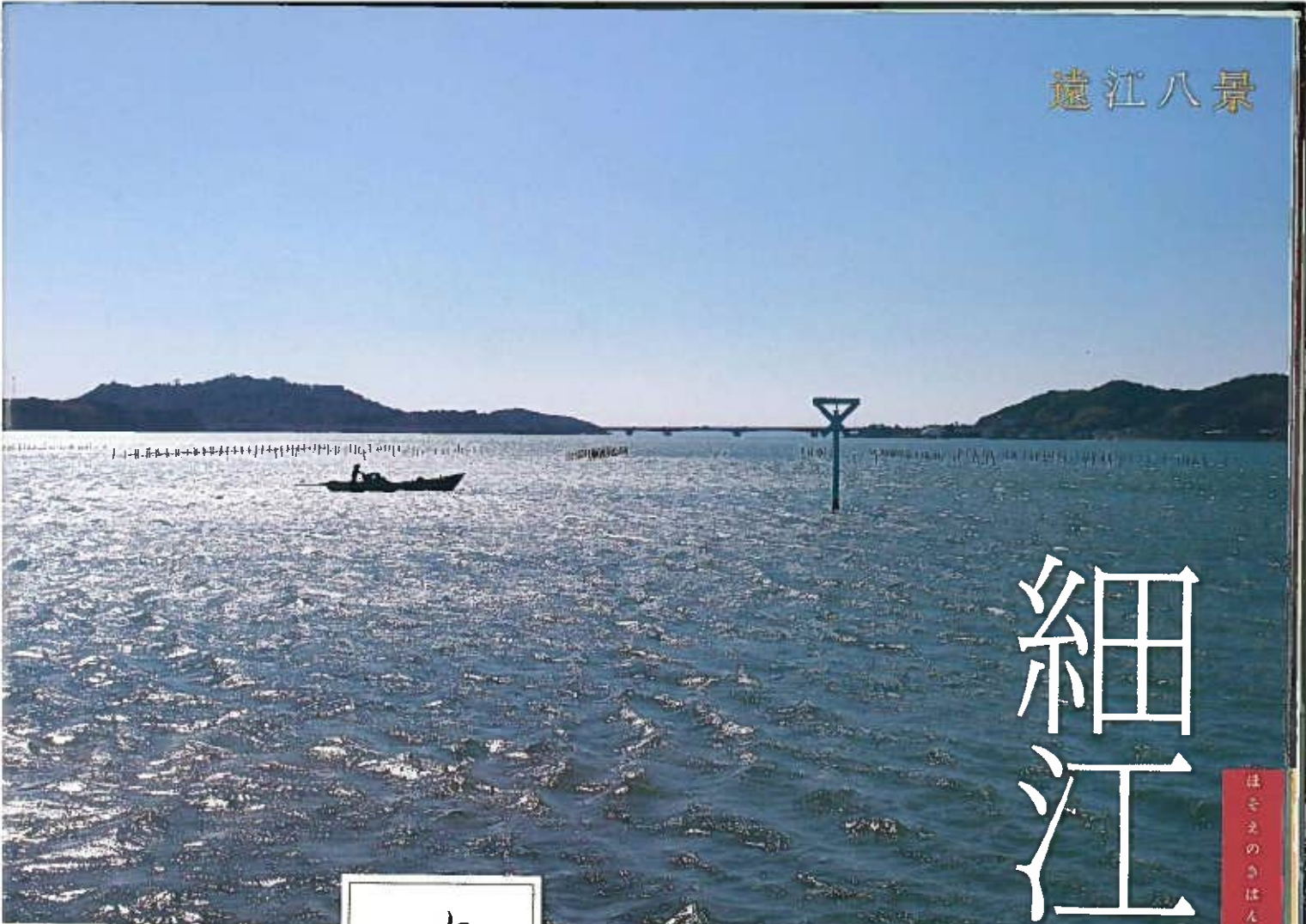


平安時代初期に弘法大師によって開かれたといわれる古刹。小堀遠州作と伝わる「鶴天星(どうだん)の庭」が有名で、遠州三名園の一つとなっている。また、梵鐘は鎌倉時代の嘉元3年(1305)4月10日の銘がある。静岡県で2番目に古い。

住所: 浜松市北区細江町気賀7953-1

電話番号: 053-522-0478

拝観: 午前9時から午後4時頃 大人300円



細江 帰帆

ほろえのいはん ● Hosenokihan

奥浜名湖にある支湖の一つが細江湖である。一般的には引佐細江と呼び親しまれ、万葉の昔から今日に至るまで多くの歌に詠まれ、詩や句にも細江の景観が素材として扱われている。

いる。万葉集の研究で知られる国学者賀茂真淵は妻を連れてこの引佐細江に遊んだ日のことをも岡部日記の中に綴っている。この湖の持つ情感は今も昔も変わることは無く、帆に風を受けて帰る船の影には文人の意欲をそそられる。細江公園文学の丘に建立されている歌碑、文学碑の多くが引佐細江を主題に詠いあげている。引佐細江の北岸寸座から見た湖面の南側には根本山の丘陵がやわらかな展開を見せている。引佐細江が描かれた絵図として五雲亭貞秀の「東海道五十三次勝景」がある。その勝景図の中の「浜松順路並姫街道木賀遠望」に細江湖が見えている。「木賀」とあるのは「気賀」のことで、御番所（気賀関所）も記されており、引佐細江には、五、六隻の舟の影が見える。帰帆の舟であるうか。

大空のなかより帰る白帆かな

淡庵

句碑・細江神社

細江神社境内にある細江八景の句碑は、明治30年浜松市北区細江町気賀の俳人思之庵雲泉（本名鈴木角平）によって建立されたもので、雲泉が気賀近隣で活躍した俳人たちの顕彰を意図したものであった。

碑の一行目にあげられている細江帰帆の句をものした淡庵は、この地の先覚者で産業経済面に大きな足跡を残した気賀林の号である。明治十四年淡庵に対する寿辞を集めた「百里園風光」と題された和本には淡庵自身も詩文を発表している。淡庵は文人としての一面も持っていたのである。

旅にして誰に語らむ

遠つあふみ引佐細江の

春のあけぼの

香川景樹

万葉集に「遠江引佐細江の濤標(みをつくし)吾を頼めてあさましもの」という歌があるように、引佐細江は古来、多くの歌人に詠まれてきた。与謝野晶子は「名を聞きて王朝の貴女ときめきし引佐細江も気賀の町裏」と詠み、佐佐木信綱は「遠つあふみ引佐細江の秋風に月影寒くあしの花ちる」と詠んでいる。香川景樹は江戸時代後期の歌人。「春のあけぼの」でまとめ、まるで陽射しまで感じられるような一首だ。



◆ 王翫亭貞秀 東海道五十三次勝景
「東海道五十三次之内浜松順路並姫街道木質遠望」(部分)
万延元年(1860) 早稲田大学図書館

おくやまじゅうりつそろく
奥山十律(其の六)
林蓉舟

気賀関頭第二区

きがせき けり 第二区

従来勝地興何孤

しゅうち 興何ぞ孤ならん

細江風月余詩律

細江の風月 詩律に余り

奥嶺煙霞付画図

奥嶺の煙霞 画図に付す

【訳】

気賀の関所のあたり 際立つこの地
この由緒ある景勝地の近隣にも

興味がわくところがある

清風明月の細江は詩で言い尽くせない美観
煙霧雲霞の奥山は絵に描かれたような佳景

【解説】

「奥山吟詠輯」(乾)(明治十八年(二八八五))
所収の作品。作者の(遠州)林蓉舟は未詳。
七言律詩十首連作のうち、第六首の前半を
引いた。対句の第三句と第四句は細江と奥
山の風景を詠じたものである。地名の「細
江」「奥嶺(山)」「細・奥」が単なる地名で
はなく、水のすがた・山のたたずまいをも対
比的に描写しており、作者の手腕が光る。

交通アクセス



撮影地: 静岡県浜松市北区細江町気賀
【鉄道】 天竜浜名湖鉄道西気賀駅から徒歩約21分
【車】 東名高速道路 浜松西ICから約22分
東名高速道路 三ヶ日ICから約12分

周辺情報
information

浜松市気賀関所



慶長6年(1601年)に徳川家康によって設置された関所。残存した資料をもとに冠木門や本番所等の建物が再建され、本番所や向番所には等身大の関守の人形が置かれるなどして、当時の様子が再現されている。
住所: 浜松市北区細江町気賀4577
電話番号: 053-523-2855
HPアドレス: <http://www.kigasekisho.com>

浜松市姫街道と銅鑼の歴史民俗館



都田川流域は全国有効の銅鑼出土地であり、姫街道を通行する旅人たちの使った道具や鑑札などのほか、主に細江地域から発見された銅鑼など考古資料類、浜名湖の漁業や遠州畳表などの産業に関するものまで幅広く展示している。
住所: 浜松市北区細江町気賀1015-1
電話番号: 053-523-1456
HPアドレス: <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/09annax/hakjubu03.html>

万葉集

遠江歌考を

著した

国学者

賀茂真淵

Kamo no Mabuchi

とその業績

賀 茂真淵は遠江国浜松が生んだ匡学(きょうがく)の泰斗(たいとう)であり、万葉調(まんやせうてう)の歌人と

して名をなし、生涯に「千首もの和歌を詠んでいる。真淵は万葉集の研究で大きな業績を残し、国学を通して数多くの門人を育成、県門と呼ばれている弟子の数は三百四十余人に達している。遠江においては『遠江匡風土記伝』を著した内山真龍(まねりゅう)や『神代記葦牙』を手がけた栗田士満(くりたしまん)は知られるところである。

真淵の代表的著述は、宝暦十年(二七六〇)にまとめあげた『万葉考』である。訓読や批評を加えてまとめた全六冊本で、この本が日本における万葉研究の教本とされ、きわめて高い成果として今日でも注目されている。真淵の門人の中でも最も有名なのが伊勢松坂の本居宣長(ほんけののりなが)である。『古事記伝』の著者として広く知られている。



宣長が真淵と直接会って教えを受けたのは宝暦十三年(二七六三)の一度だけであつた。真淵が大和に旅をした際に宿泊した伊勢松坂の旅籠を、宣長が訪ねたときで、真淵六十七歳、宣長二十四歳。これが文学史上有名な「松坂の夜」である。このとき真淵に「自分に万葉研究」筋に関わっているので時間が無い。あなたは若いのでぜひ古事記の研究をして欲しい。」と伝えたという。宣長が著した不朽の名著『古事記伝』を完成させた背景には「松坂の夜」における真淵の一言があつたのである。

真淵は元禄十年(二六九七)三月四日、遠江国敷智郡浜松庄伊場村(浜松市中央区東伊場二丁目)に生まれた。父は賀茂神社の神官であつた岡部政信、母は遠江国長上郡天千村の郷士竹山孫左衛門茂家の娘である。由緒ある家柄同士の両親であつた。若くから学問の道を好んだ真淵は浜松宿の諏訪神社の神官であつた杉浦国頭の妻真崎に手習いを受けた。真淵は幼名を三四と呼ばれていたが、後に賀茂真淵を称するようになった。

「賀茂」は賀茂神社の社名からとつたもので真淵の「真」は飾り言葉、「淵」は自分の生まれた伊場村が敷智郡(ふちのこのお)りであつたため、ペンネームとしたとされている。浜松における勉学に限界を感じた真淵は京に上り国学者荷田春満(かたはるみち)に教えを受けるようになったが、春満が没したため、江戸に出た。この江戸行きがきっかけとなり、八代將軍徳川吉宗(とくがわよしむね)の次男田安宗武(たにむねたけ)に仕え和学御用をつとめることとなつた。その宗武から万葉集に集録されている歌から、遠江と関わり合いのあるものを選び出し、注釈をするようにと求められた。寛保二年(二七四二)、真淵四十六歳の時である。かくて遠江の地名が読み込まれている歌や、遠江の人がもつた歌を丹念に選び出し、まとめあげたのが『万葉集遠江歌考』である。

歌考に集録されている和歌は十九首のほり、その巻頭に長忌寸奥麻呂(ながいみすんおくまろ)が詠んだ『引馬野』にほふ榛原入り乱れ衣にほはせ旅のしるしにの一首があげられている。木頁写真真淵が壮年期にまとめたこの著述が版本として世に出されたのは真淵の没後五十一年後の文政三年(二



◆「万葉集遠江歌考」表紙



◆「万葉集遠江歌考」巻頭部分



◆賀茂真淵肖像画
(浜松市立賀茂真淵記念館蔵)



◆「万葉考」全6冊・賀茂真淵著
宝暦10年 脱稿

八二〇)で、板行したのは白須賀(湖西市)の国学者夏目麿庵であった。

宝暦十三年、真淵は大和から江戸に帰る途中、ふる里浜松に立ち寄り、次の一首を詠んでいる「遠つあふみ あらら浜松本ごと」による波みつつ涼みとるかも、浜名湖を見て懐かしさが込み上げてものした作品である。真淵のこの一首は庄内半島先端部にある西区村櫛町の浜名湖畔に歌碑として建立されている。真淵の歌碑は佐鳴湖畔の臨江寺境内や浜北区岩水寺の境内、中区東伊場の縣居神社にもある。縣居神社は高林方跡など郷土の国学者が真淵を神として祀ろうと江戸後期に縣居翁霊社として伊場の賀茂神社境内に創建したのがはじまりで、大正年間、現在の伊場の高台に移され縣居神社の社名に改められた。なお、真淵が没したのは明和六年(一七六九)享年七十三歳であった。

神社の隣接地にある浜松市立賀茂真淵記念館は真淵の顕彰と国学振興のために設置されているもので、本頁に掲載した真淵翁の画像は真淵の後裔にあたる岡部家の宗家に伝わるものである。

花の都へようこそ 浜名湖の花めぐり

静岡県は、温暖な気候に恵まれ、四季折々に多彩な花が咲き誇るまさに「花の都」です。

浜名湖のまわりにもたくさんの花の見どころがあふれています。

また、静岡県で生産される花は704品目(平成24年度静岡県調べ)もあり、
全国屈指の花の生産県です。

ガーベラの生産日本一を誇る静岡県の主要な産地である浜松市には、
「はまつフラワーパーク」と「浜名湖ガーデンパーク」の2つの花と緑のテーマパークがあります。

本興寺(湖西市) ソメイヨシノ・3月下旬～4月上旬
永徳3年(1383)日乗上人の開山で、今川氏の帰依や徳川家康からの朱印地拝領により、十万石の格式を誇った古刹。古くから桜の名所として親しまれている。
住所:湖西市鷺津384 ☎053-576-0054(本興寺)



さくら

都田川桜堤(細江町)
ソメイヨシノ・3月下旬～4月上旬
浜松市姫様道中の道中行列が通過することで有名な都田川堤は、約1.5kmの並木道となっており約300本の桜がトンネルのようになる。
住所:浜松市北区細江町気賀 ☎053-522-4720(奥浜名湖観光協会)

引佐城山公園(引佐町) ソメイヨシノ・3月下旬～4月上旬
井伊道政の造築とされ、三岳城を本城とする井伊氏の平時の居城といわれる。現在は約100本の桜の名所「城山公園」として親しまれている。
住所:浜松市北区引佐町井伊谷248-1 ☎053-522-4720(奥浜名湖観光協会)

奥山公園周辺(引佐町)
ソメイヨシノ・3月下旬～4月上旬
方広寺・奥山半僧坊門前に広がる公園と周辺には約1,000本のソメイヨシノが咲き誇り、公園内の池に掛けられた「浮き棧橋」からの桜は絶景。
住所:浜松市北区引佐町奥山1576-17 ☎053-522-4720(奥浜名湖観光協会)

孚那の峯(三ヶ日町) 三ヶ日桜・4月上旬
昭和63年6月に新種として命名された淡紅白色をした八重咲きで遅咲きの三ヶ日桜。ソメイヨシノに比べて開花が1週間ほど遅いのが特徴。
住所:浜松市北区三ヶ日町下尾奈板築山 ☎053-524-1124(三ヶ日町観光協会)

こでまり(湖西市) 4月中旬
こでまりは純白の小さな花が集まり、2センチほどの手まりのような球を形作る。湖西市の特産品であり、全国シェアは80%。
住所:湖西市入出 ☎053-576-1230(湖西市観光協会)



こでまり



みかんの花

みかん畑(三ヶ日町) 5月上旬～中旬
三ヶ日町全域に広がるみかん畑で、白く小さな花が咲く。開花中はあたりにみかんの花の香りが漂う。
住所:浜松市北区三ヶ日町 ☎053-524-1124(三ヶ日町観光協会)

龍潭寺(引佐町) 4月下旬～5月
国指定名勝の小堀座州作で知られる庭園でさつきが新緑のなか鮮やかに見頃を迎える。
住所:浜松市北区引佐町井伊谷1989 ☎053-542-0480(龍潭寺)



さつき

花の寺
静かな人出中に歩す
星野立子



あじさい

奥山公園周辺・伊平川堤周辺(引佐町) 6月上旬～6月下旬
奥山公園周辺では約3,000株、伊平川堤周辺では5,000株のあじさいが鮮やかに咲き誇る。
住所:浜松市北区引佐町奥山1576-17 ☎053-522-4720(奥浜名湖観光協会)

遠くあふみ大河流るる
 国なかば菜の花咲きぬ
 富士をあなたに
 与謝野晶子

歌集「舞姫」より



しだれ梅



つつじ

大草山(呉松町) 昇竜しだれ梅・2月上旬～3月中旬
 「昇竜しだれ梅」は竜が雲をつかみ、天に昇るように仕立てられた独特な樹の形の花梅。
 園内の流水庭園等に約280本が花を咲かせる。
 住所：浜松市西区呉松町
 ☎053-487-0152 (館山寺温泉観光協会)

ツツジ(湖西市) ミヤマツツジ・4月中旬
 湖西市入出、正太寺の裏山に咲くミヤマツツジは、その数600株とも言われている。
 花が散るまで葉が付かないため、他のツツジよりも美しく紫色を見せる。
 住所：湖西市入出
 ☎053-576-1230 (湖西市観光協会)

奥山高原(引佐町)
 昇竜しだれ梅・2月下旬～3月下旬
 まるで竜が天に昇るような独特な樹形に仕立てられた花梅。園内の流水庭園や山裾に約280本が花を咲かせる。
 住所：浜松市北区引佐町奥山堂ノ上1736-1
 ☎053-543-0234 (奥山高原)

渋川つつじ公園(引佐町)
 渋川つつじ・5月中旬～下旬
 静岡県指定天然記念物の渋川つつじは鮮やかな紅紫色の花を咲かせ、花と葉を3つずつつけるのが特徴。
 住所：浜松市北区引佐町渋川179-6外
 ☎053-522-4720 (奥浜名湖観光協会)



トキワマンサク

トキワマンサク
 (湖西市) 4月中旬
 4月中旬になると、神座川の上流では薄黄をおびた小さな白い花が一斉に咲き誇る。その様子は川沿いに霞がかかったように美しく幻想的。群生地としては日本北限の分布で、県の天然記念物に指定されている。
 住所：湖西市神座
 ☎053-522-4720
 (湖西市観光協会)



源平しだれ桃

カナメ神宮(引佐町)
 3月下旬～4月上旬
 神社境内に植えられている約100本のしだれ桃が、白とピンクの花をつけ、競い合うように咲き誇る。
 住所：浜松市北区引佐町奥山1737-341
 ☎053-543-0241 (カナメ神宮)

むらぐし
 依田学海

雨晴湖面碧如盆
 臨水人家是櫛村
 数隻漁舟繫彼岸
 菜花麦浪接柴門

雨晴湖面碧如盆 雨晴れて湖面碧盆の如し
 臨水人家是櫛村 水に臨む人家是れ櫛村
 数隻漁舟繫彼岸 数隻の漁舟繫きて岸に依る
 菜花麦浪接柴門 菜花 麦浪 柴門に接す

〔訳〕
 雨が上がり湖面は器の水のように静かに青々としている湖面に面した人家のあるところは村櫛村。数隻の漁船が係留している岸辺あたりは、菜の花が咲き麦の穂が波打ち人々の家まで広がっている。



はままつラフワーパーク
 3,000種10万本の植物が植えられている植物園。ウメ、桜、チューリップ、バラ、ハナショウブ、アジサイなど、一年を通じて四季折々の花が観賞できる。
 住所：浜松市西区館山寺町195 ☎053-487-0511
 HPアドレス：<https://www.e-flowerpark.com/>



浜名湖ガーデンパーク
 2004年に開催した「浜名湖花博」の会場として開園。2014年開催の「浜名湖花博2014」の会場でもある。施設内の「花の美術館」は、「花の庭」と「水の庭」の2つのコンセプトで構成されており、「花の庭」では、春から秋にかけてバラ、ひまわり、コスモスなど様々な花を楽しめ、「水の庭」では、春から夏にかけてスイレンの花を見ることが出来る。ほかにも、冬にはサザンカやツバキなどを見ることができ、年間を通じて多様な花々を鑑賞することが出来る。
 住所：浜松市西区村櫛町5475-1
 ☎053-488-1500
 HPアドレス：
<http://www.hamanako-gardenpark.jp/>



浜名湖周辺の句碑・歌碑

番号	形式	詠人等	所在地
1	句碑	加藤豊勝	活園
2	句碑	正岡子規	弁天神社
3	句碑	松島十湖	弁天島海浜公園
4	詩碑	種田山頭火	新居弁天海浜公園
5	歌碑	清水みのる	大元厚敷跡
6	歌碑	井二迷女	湖西市立新居図書館
7	句碑	種田山頭火	新居駅西方100m緑地帯
8	句碑	不夜庵太紙	新居開所
9	歌碑	藤原定家	浜名川・日ヶ輪地区親水公園
10	歌碑	源頼朝	愛宕山山頂
11	歌碑	藤原為家	市道袖川大倉戸線沿い
12	歌碑	阿佛尼	恵比寿神社
13	歌碑	楳有舜	蔵洗寺
14	歌碑	夏目盛麿	清源院
15	歌碑	五味重雄	本興寺
16	句碑	北原白秋	磯島
17	句碑	菅沼夢溪	宝珠寺
18	句碑	百合山羽公	三ヶ日
19	句碑	経郷	三ヶ日
20	歌碑	万葉集(詠人知らず)	三ヶ日
21	歌碑	万葉集(詠人知らず)	三ヶ日
22	句碑	久米止雄	三ヶ日
23	歌碑	田辺友三郎	津ヶ崎猪鼻湖岸
24	句碑	富安風生	野地城址寄側
25	句碑	大町桂月	大崎半島(琴水館側)
26	句碑	大谷句仙	三ヶ日町岡本・夏目家庭園
27	句碑	松島十湖	三ヶ日町平山・木下家庭園
28	句碑	松島十湖	三ヶ日町福長・清水家庭園
29	句碑	空水	三ヶ日町平山・オノ神
30	句碑	松島十湖	三ヶ日町平山・オノ神
31	句碑	清水善麿	三ヶ日町平山・オノ神
32	句碑	清水善麿	三ヶ日町平山・オノ神
33	句碑	空水	三ヶ日町平山・オノ神
34	句碑	菅沼夢溪	瓦塔遺跡
35	句碑	清水善麿	風越峠
36	句碑	清水善麿	引佐町奥山
37	句碑	有馬期人	方広寺
38	歌碑	与謝野晶子	方広寺
39	歌碑	無文禪師	方広寺
40	歌碑	後醍醐天皇	方広寺
41	句碑	柳園成佳	密街道沿い(プリンス側付近)
42	詩碑	清水みのる	五味半島(プリンス側)
43	句碑	里村紹巴	種本川河口付近(水門付近)
44	歌碑	山田無文	金羅寺
45	歌碑	万葉集(詠人知らず)	小森橋南詰十手
46	歌碑	山田無文	金地院
47	句碑	山静	長楽寺
48	句碑	松島十湖	長楽寺
49	詩碑	清水みのる	長楽寺
50	詩碑	佐藤春夫	文宇広場
51	詩碑	白柳秀湖	文宇広場
52	歌碑	香川景樹	文宇広場
53	歌碑	与謝野晶子	文宇広場
54	歌碑	千載集(詠人知らず)	文宇広場
55	歌碑	与謝野晶子	浜松市北区役所屋上
56	歌碑	香川景樹	都田川北岸 堤
57	歌碑	佐佐木信綱	都田川北岸 落合橋付近
58	歌碑	河合象子	都田川南岸 みをつくし橋付近
59	句碑	松島十湖	都田川南岸
60	句碑	淡庵	都田川南岸
61	句碑	咲女	都田川南岸
62	句碑	耳流	都田川南岸
63	句碑	且雪	都田川南岸
64	句碑	松歳	都田川南岸
65	句碑	竹住	都田川南岸
66	句碑	成住	都田川南岸
67	句碑	橋隆	都田川南岸
68	句碑	松島十湖	東慈寺
69	歌碑	与謝野晶子	東慈寺
70	歌碑	天皇陛下(皇太子のころ)	東慈寺
71	詩碑	清水みのる	東慈寺
72	歌碑	万葉集(詠人知らず)	東慈寺
73	歌碑	吉野江水	東慈寺
74	歌碑	竹田智是	東慈寺
75	句碑	水原秋櫻子	東慈寺
76	歌碑	宗良親土	東慈寺
77	句碑	松島十湖	東慈寺
78	句碑	松島十湖	東慈寺
79	句碑	原田浜入	東慈寺
80	歌碑	北原白秋	東慈寺
81	句碑	原田浜入	東慈寺
82	歌碑	石塚龍麿	東慈寺
83	歌碑	賀茂真淵	東慈寺
84	歌碑	鷹野つぎ	東慈寺
85	歌碑	竹村広隆	東慈寺



「遠江八景」選定委員会

委員長	／	右馬	師人
顧問	／	芳賀	徹
委員長	／	熊倉	功大
委員長	／	上垣外	憲一
委員長	／	許山	秀樹
委員長	／	神谷	昌志
委員長	／	田中	章義
委員長	／	磯田	道史

遠江八景

平成26年3月発行

静岡県文化・観光部 交流政策課

〒420-8601 静岡市葵区迫手町9番6号

電話番号 054-221-3612

FAX番号 054-221-2980

